



白ねぎ便り（2月号）



1. 九州北部地域の気象予報

1か月予報 1/24～2/23 福岡管区気象台1/22発表

気温：平均並か低い 降水量：少ない 日照時間：平年並か多い

3か月予報 1～3月 福岡区気象台1/20発表

気温：高い 降水量：ほぼ平均並

2. 黒腐菌核病

【症状】

- ・初期症状：葉が黄化後、灰白色に枯れ、生育が悪化
- ・進行症状：根や茎盤部が腐敗、黒いかさぶた（菌核）が発生

【発病しやすい条件】

- ・発病適温：10～20℃
- ・10～11月、3～5月に発生しやすい

【対策のポイント】

- ・無病地に苗床を設け、無病苗を選んで定植
- ・**パレード20フロアブル**の灌注は効果が高い
- ・土壌に菌核が5～6年残る
- ・**発病圃場はカラシナ等、緑肥を栽培すると被害が軽減**



RAC	農薬名	収穫前日数	使用方法	回数
7	アフェットフロアブル	14日前	株元灌注	2回
	パレード20フロアブル	育苗期後半～定植当日	灌注	1回
3	モンガリット粒剤	14日前	株元散布	3回

3. 緑肥の紹介

・土作りとして緑肥を栽培し、すき込むことで土壌物理性、化学性、生物性の改善が期待されます。加えて土壌病害の軽減も期待できますので、ご検討ください。

種目	播種量	播種時期	効果
ヘアリーベッチ	3～5kg/10a	2月中旬～3月下旬(春播き) 9月下旬～11月上旬(秋播き)	マメ科のため、空気中の窒素を固定し、化学性を改善する
セスバニア	条播4kg/10a 散播5kg/10a	5月上旬～8月下旬	
アンジェリア	2～3kg/10a	2月下旬～3月中旬(春播き) 11月中旬～12月上旬(秋播き)	
クロタリヤ	6～9kg/10a	5月中旬～8月上旬	直根性のため物理性の改善に有効
ヒマワリ	条播1～1.5kg/10a 散播1.5～2kg/10a	4月中旬～8月上旬	AV菌根菌の寄生が多くリン酸の吸収を改善
カラシナ	1.0kg/10a	2月～3月(春播き) 10月下旬～11月中旬(秋播き)	すき込むことで土壌消毒効果が期待される

3. ベと病

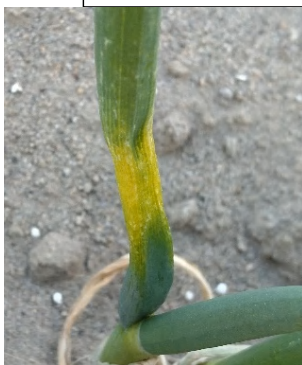
- ・ベと病は気温13～20℃、多湿条件になると発病しやすくなります。
- ・11月～12月は発病適温が続いたため、感染している可能性があります。
- ・ベと病の防除をしていない場合は、**浸透移行性**のあるベトファイター顆粒水和剤、プロポーズ顆粒水和剤、メジャーフロアブルなどを使用し菌密度を下げましょう。
- ・その後、**予防効果の高いマンゼブ(RAC：M3)**が入った農薬で予防を行ってください。

・大発生した2024年と同様の気象が続いています。2月以降、雨が続くようなら要注意です。気象状況を確認してください。

RAC	農薬名	収穫前日数	使用方法	回数
11 4	ユニフォーム粒剤	土寄せ時 収穫45日前	株元土壌混和	1回
11	メジャーフロアブル	前日	散布	3回
40 M5	プロポーズ顆粒水和剤	14日前	散布	3回
M3 4	リドミルゴールドMZ	14日前	散布	3回
3 M3	テーク水和剤	14日前	散布	3回
27 40	ベトファイター顆粒水和剤	14日前	散布	3回
40 M3	カンパネラ水和剤	14日前	散布	3回
40	レーバスフロアブル	7日前	散布	2回
21	ランマンフロアブル	3日前	散布	4回
21 27	ダイナモ顆粒水和剤	3日前	散布	4回

【注意！】マンゼブを含む農薬の総使用回数は3回以内

黄白色のぼやけた退色病斑を生じ、その上に白～黒色の胞子を形成



↑降雨後は灰色になる

農薬の効果・浸透移行性はメーカーHP等を参考に記入しています。同じ成分を含んでいる農薬があるので総使用回数の確認をお願いします。使用方法等により「濃度・使用量」等が異なりますので使用前にラベルを確認ください。

問い合わせ先 (2026. 1. 26発行)
北部振興局生産流通部(0978-32-1555)
園芸第1班(宇佐市) 玉井
園芸第2班(豊後高田市) 姫野・安部